

学級経営・授業経営 領域

2025年度入学者選抜試験案内



学級経営・授業経営領域の特徴

本領域は、学級経営の指導力と各教科の指導力を身に付け、それらを車の両輪のごとく専門職としての総合指導力の向上を目指し、学力向上、特別支援教育、アクティブ・ラーニング、いじめ問題等、教育の今日的課題を解決する力を付けることを目的とした領域です。学校課題に即した実践研究の成果を学校現場で活かすことができます。

教育課題解決能力

個別最適な学び、協働的な学び、ICT教育、特別支援教育
アクティブ・ラーニング、インクルーシブ教育、
カリキュラム・マネジメント、いじめ、不登校、道徳教育、and so on……



総合的指導力



学び続ける教師

- ・ 本領域では学級経営と教科指導を分離せず、教科学習の時間で学級経営を行い、その基礎の上に特活等での学級経営を行います。そのような学級経営と教科指導の融合する授業経営を学びます。
- ・ 教員採用試験に合格することは大切ですが、同時に、採用後に辞めない力も必要です。これは現職教員も同様です。その力とは、年齢の異なる人と繋がる力です。本領域では繋がる力を獲得できます。

学級経営

現行の学習指導要領では、小学校から高等学校の総則に学級（ホームルーム）経営の充実が記載されました。子どもたちが日々の生活を共にする基礎的な集団は、学級やホームルームであり、学習活動や学校生活の基盤として小・中・高等学校を通じた充実を図ることが求められています。しかし、学級（ホームルーム）経営は、学習指導要領において明確な定義が見当たらず、教員養成でも十分に触れられていないのが現状です。本領域は、現場経験のある教員、通常学級における特別支援教育を専門にする教員が在籍しており、学級経営を多角的に研究することができます。

予測不能な未来を生きる子ども達。その学びを支える教師には、知識・技能の教授のみならず、自ら学ぶ力、協働し課題解決する力等の非認知能力をも伸ばす実践が求められます。

そのため教師には、教材研究力、一人ひとりの学びの姿を適切に見取り支援する能力、子ども達を繋げる授業設計力やファシリテーション能力等様々なわざが必要とされます。そして、学級づくりと授業づくりを峻別せず、融合させ子ども達の学びを支える事が重要です。本領域は、学級づくりと授業づくりの理論と実践を融合・往還させ、授業経営を多角的に研究できます。

授業経営

特別支援教育

通常学級に在籍する児童生徒のうち8.8%の児童生徒が特別な支援を必要としていることが文科省調査によって明らかとなっています。学級経営・授業経営の在り方を考える際、特別支援教育に関する知識や視点は必ず役に立ちます。本学では3年の教職経験と6単位の修得によって、特別支援学校教諭二種免許状を取得できます。大学院入学時に教職経験がなくても、基礎免許状を取得していれば修了後に取得できます。本領域では特別支援教育に関するプロフェッショナル科目を新設し、学級経営や授業経営と関連付けて実践的に学ぶことができます。

我が国では、インクルーシブ教育システムを構築するために、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった多様な学びの場が用意されています。学びの場が分断されぬよう教師間で協働し、子ども一人一人の個別最適な学びと協働的な学びを支えることが重要です。本領域には、通級による指導（言語、聴覚、発達）を専門としたスタッフが所属しており、通級指導担当教師の養成を視念に、インクルーシブな学級経営・授業経営にかかわる授業や学校支援プロジェクトを展開しています。

インクルーシブ教育

ICT

2021年度からGIGAスクール構想が全国で始まり、小・中学校では1人1台の端末とクラウドの活用、オンライン授業などが一般的に行われるようになってきました。これは授業経営のみで生かされるツールではなく、学級経営においても活用が期待されています。現在の教員にとって、ICTを効果的に用いて指導する「情報活用指導力」は、必要不可欠な資質・能力となっています。本領域では、ICTを研究分野にしている教員も複数在籍しており、ICT活用の基礎基本から、先進的なICTの研究分野まで理論的・実践的に学ぶことができます。

子ども達の「君たちはどう生きるか」という考えを深めるのと同時に、「自分はどう生きるか」が教師にも問われるのが、道徳科です。何が正解かますます分からなくなる時代、どれだけAIが発達しても、それを何のためにどう使うのかを判断するのは人間です。本領域では、「自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性（内面的な資質）」を養う、道徳科や道徳教育の内容やあり方などについて学ぶことができます。

道徳科を要した道徳教育

学校支援
プロジェクト

諏佐 みなみさん

(2023年度修了・埼玉県さいたま市小学校教員)



学校支援プロジェクトとは、連携を結ぶ学校の実態に合わせた支援や研究を行い学校を良くしていく取り組みです。私はこの2年間小学校に入り学校支援プロジェクトを行いました。研究室に入るきっかけとなったペア・コミュニケーションを使い子どもたちの授業での振り返り、生活での振り返りの質を研究しました。初めて行う活動は私にとっても子どもたちにとっても戸惑いが多くスムーズに進むことが出来ませんでした。アドバイザーや先輩方の優しいサポートがあり実践することができました。また、この研究は学会発表といった形で発表を行い良い経験ができたと感じています。他にも、担当した学級で学級活動を行いました。実践していく中で担任の先生と話し合いを重ね実践をより良いものにしていくことが出来ました。現場にいる先生と話すことができたり実践を通して子どもの前に立つことができたり様々な経験を積むことができました。

鎌倉 正和さん

(2023年度修了・新潟県公立小学校教諭)

プロフェッショナル科目

私は、理科学習を学級経営や他教科の学びとの融合について学びたいと考え、大学院への進学を決意しました。プロフェッショナル科目の1つ「カリキュラム・マネジメントを育む理科学習デザイン論」では、大学院での研究における基本とも言える学術論文の読み方と論文要約演習の他、全国学力・学習状況調査の問題分析とどのように実際の授業をデザインすべきかのグループ検討などを行いました。理論としての学びだけでなく、グループでの対話を通じた実践的な学びは、現場に戻った現在でも役立っています。さらに、本講義はCSTプログラムで認定されているため、大学院でCSTを取得する上でも役立ちました。プロフェッショナル科目では、理論と実践を兼ね備えた教授陣と、同じ熱意をもった仲間達との対話的な学びを通して、自分の専門性を高めるとともに、新たな専門性の獲得につなげることができます。(※CST…コア・サイエンス・ティーチャー)



ゼミの様子

目黒 幸士郎さん

(2023年度入学・新潟県公立小学校教諭)



学級づくりに関する理論や方法を学び、これまで教員として行ってきた実践とつなげることで、そしてこれからの学校教育と未来を生きる子どもたちのために学ぶことを目指して、本学・本領域への入学を決めました。

講義等を受講するたびに、これまでの常識や概念が、一新され再構築されます。教育課題に対しても、一つの側面から見るのではなく、色々な側面から見つめる大切さや、批判的・俯瞰的に見つめることで新たな側面が見えてくることを実感しています。

さらに、本学は現職教員(小学校・中学校・高等学校)、学部卒生など多様な立場のメンバーがいます。そのメンバーと意見や考えを交わしたり、協働したりする時間は、新しい知見を得られると共に、人として、教師としての自分自身を見つめ直す機会となります。教育のため、子どもたちのために学び続けることのできるすばらしい環境が揃っています。

現場での
活躍

渡部 智華さん (2017年度修了・福岡市小学校教諭)



大学院では、理論と実践の往還を常に意識した2年間でした。今年度は校務分掌においてテーマ研究部に所属し、市の研究発表会に向けて研究集録を作成しました。市のめざす子ども像や学校長の学校経営方針に沿った主題を設定する際には、教科書通りに実験を進めても、なかなか納得の表情を見せない子どもたちを日々目の当たりにし、「チャレンジする子どもの育成」を主題として、研究を進めていきました。教師がどのように授業を展開するか、ということの探求ではなく、子どもたちにマインドセットに関するアンケートを取り、その結果を基に授業デザインを構築する。そして何度も再考していく本校の研究において、大学院で膨大なデータを取り、分析し、考察し、研究としてまとめた経験が大いに生かされました。常に目の前の子どもたちを意識して授業をデザインすることは、授業の中での集団作り・学級経営にも繋がると感じています。

田中 輝さん (2023年度入学・京都府出身 教育職員免許取得プログラム・新規)

教育職員免許
取得プログラム

小学校の教員になりたいという気持ちを大学生の時に抱きました。そんな気持ちを抱いていたところ、上越教育大学教職大学院では小学校の免許を取得できるということを知りました。そのことがきっかけとなって進学を決意しました。本学では、免許取得に加えて、教育に関する専門的な知識を学べたり、実際に学校で実践したりすることができます。こうした毎日の学びが自分の成長につながっていると感じます。本学は、教育に対する学びを深め、自分の成長を実現することのできる場所だと思います。



1年制
プログラム

鮫島 純二さん (2016年度修了・鹿児島県公立小学校教頭)



本学へ進学する前、在籍校における組織の活性化、教師のやりがいや、やる気の向上、自律性に関し、学び直しの必要性を感じていました。折しも、本学教職大学院が「1年制プログラム」を開設するという情報に接しました。各種主任等の教職経験が取得単位に考慮されるというもので、県外派遣の適齢期を過ぎた自分にとって大変ありがたい制度でした。

研究関心が移り行く中で、次第に教師の士気の向上、モチベーションといった部分に焦点が定まりました。先生方の勧めもあり、教職大学院紀要への論文執筆に挑戦し「教師のエンパワーメントを促進する要因についての研究」として掲載が叶いました。若手教師とベテラン教師の促進要因の違いを明らかにすることができました。学級・学校経営でも心理的安全性という言葉がよく聞かれるようになりましたが、本学での研究や学修がまさに今、ダイレクトに「効いている」ことを実感しています。

キャリアプラン

高い就職率！

| 修了年 | 小学校 (人) | 中学校 (人) | 義務教育 学校 (人) | 高等学校 (人) | その他 (人) | 内臨時 (人) | % |
|------|------------|------------|----------------|-------------|------------|------------|-----|
| 2023 | 15 | 3 | 0 | 1 | 2 | 3 | 100 |
| 2022 | 29 | 3 | 1 | 1 | 0 | 4 | 100 |
| 2021 | 30 | 7 | 0 | 5 | 0 | 7 | 100 |

※現職派遣院生を除く。

教員採用試験を有利に！

- 違う校種の免許が取れます！
 - ・ 教員免許取得プログラムに登録すれば、受講料なしで免許状取得に必要な単位や実習を受けられます。
 - ・ 小学校の免許が取得できる数少ない大学院です。
- 名簿搭載期間延長制度も利用できます！
 - ・ 合格しても、修了まで採用を待ってくれる制度で、合格すれば2年生の大学院授業料は半額免除になります。
 - ・ 1年次に教員採用試験を受験することも可能な自治体もあります。
 - ・ 最新情報は右記URLをご参照ください。 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/senkou/1243158_00001.htm
- 教員採用試験の大学推薦制度の利用ができます（推薦要件、学内選考あり）！

これまで推薦実績のある自治体

| 自治体名 | | | | | |
|------|-------|-----|------|-----|-----|
| 埼玉県 | さいたま市 | 東京都 | 神奈川県 | 横浜市 | 川崎市 |
| 相模原市 | 新潟県 | 新潟市 | 長野市 | 富山県 | 愛知県 |

ほか

院生の発表した学術論文・図書

最近、5年間に発表した学術論文の総数は50編以上です。

「論文名」，掲載誌，筆者名，発表年

教科等横断的な対人技能指導が、児童の自己有用感にもたらす影響について，日本学級経営学会誌，佐藤百華ほか，2024

青年期段階における自己語りを通じた自己形成を促す学習デザイン—ナラティブ・アプローチの視点から—，国語科学習デザイン，新井翔太ほか，2024

戯文の創作がメタ認知的活動に及ぼす影響に関する事例的研究—メタ認知的モニタリングとメタ認知的コントロールの視点から—，臨床教科教育学会論文誌，西田圭吾ほか，2023

クラウドによる方略の相互参照が小学校高学年児童の意見文作成に与える効果の検証，日本教育工学会論文誌，多々納春樹ほか，2023

最近、5年間に発表した実践図書の総数は40編以上です。

「図書名」，出版社，筆者名，発表年

シェアド・リーダーシップで学級経営改革，明治図書，水流卓哉ほか，2024

小学校国語科 物語の教材研究大全 1，2年，明治図書，高橋圭祐ほか，2023

学級経営がうまくいくファシリテーション，学事出版，前田考司ほか，2023

子どもが主役の学習評価 授業づくりネットワークNo.43，学事出版，椎谷由佳ほか，2022

スタッフ紹介



赤坂真二 akasaka@juen.ac.jp

元小学校教師。学級経営，生徒指導，教育相談，教師の指導力育成，学校改善を担当。学校心理士。日本学級経営学会共同代表理事。



坂口嘉菜 kana@juen.ac.jp

元特別支援学校（聴覚障害）教師。認知心理学をもとに聴覚障害のある子の言語発達・読解に関する研究。修士（行動科学）。



阿部隆幸 abetaka@juen.ac.jp

元小学校教師。「授業づくり」と「学級づくり」が興味を中心。日本学級経営学会共同代表理事。授業づくりネットワーク副代表。



佐藤多佳子 takako@juen.ac.jp

元小学校教師。国語科の学習デザイン研究。特に教材の本質を捉えた分析・研究，学習者に寄り添う単元開発等。博士（学校教育学）。



大島崇行 oshima@juen.ac.jp

元小・中学校教師。ICTに支援された協働的な授業設計研究，学生・教師の学び研究。博士課程講義担当教授。博士（学校教育学）。



関原真紀 maki@juen.ac.jp

元小学校教師。通常の学級における特別支援教育の推進，校内体制や関係機関との連携等の実践研究。学士（教育学）。



片桐史裕 katagiri@juen.ac.jp

元高校国語科教師。国語科授業デザイン，古典授業の改善，音声言語表現活動，高校学級経営，専門高校教育などを研究しています。



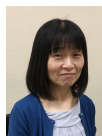
早川裕隆 hayakawa@juen.ac.jp

元小学校教師・児童福祉司。指導法を中心とした道徳科や道徳教育を研究。文部科学省教科用図書検定調査審議会臨時委員（平成27年4月～令和6年3月）



河野麻沙美 masami@juen.ac.jp

教育方法学，授業研究，学習科学を専門とし，授業分析と学校の「授業研究」の国際比較研究等を研究している。博士（教育学）。



藤井和子 fkazuko@juen.ac.jp

元特別支援学校教師。自立活動の個別の指導計画を基盤とした教師間連携による授業改善について研究している。修士（教育学）。



桐生徹 kiryu@juen.ac.jp

前附属中学校長，元中学校教師・指導主事。臨床教育学，CST養成の研究。博士課程講義担当教授，博士（学校教育学）。



水落芳明 mizuochi@juen.ac.jp

元小学校教師・中学校教師。学術研究に基づく授業づくりを研究。博士課程研究指導担当教授。博士（学校教育学）。



榎原範久 norihisa@juen.ac.jp

元小学校教師・中学校教師・日本人学校教師。社会科教育，ICT活用を研究。博士課程講義担当教授。博士（学校教育学）。

さらに，上越での学生生活（生活費など），入学金・授業料の免除，奨学金，コア・サイエンスティーチャー養成プログラム事業，1年制プログラムのことを知りたいときは右のQRコードからジャンプしてください。pdf資料を閲覧，ダウンロードできます。



令和7年度入試日程

| | | |
|------|------|------------------------------|
| 前期募集 | 出願期間 | 令和6年 7月 5日（金）～ 7月19日（金） [必着] |
| | 試験日 | 令和6年 8月22日（木） |
| 中期募集 | 出願期間 | 令和6年10月11日（金）～10月23日（水） [必着] |
| | 試験日 | 令和6年11月23日（土） |
| 後期募集 | 出願期間 | 令和7年 1月20日（月）～ 1月27日（月） [必着] |
| | 試験日 | 令和7年 2月21日（金） |

※出願状況によっては，上記の試験日の翌日にも試験を行う場合があります。詳細については，本学ホームページを御覧ください。